

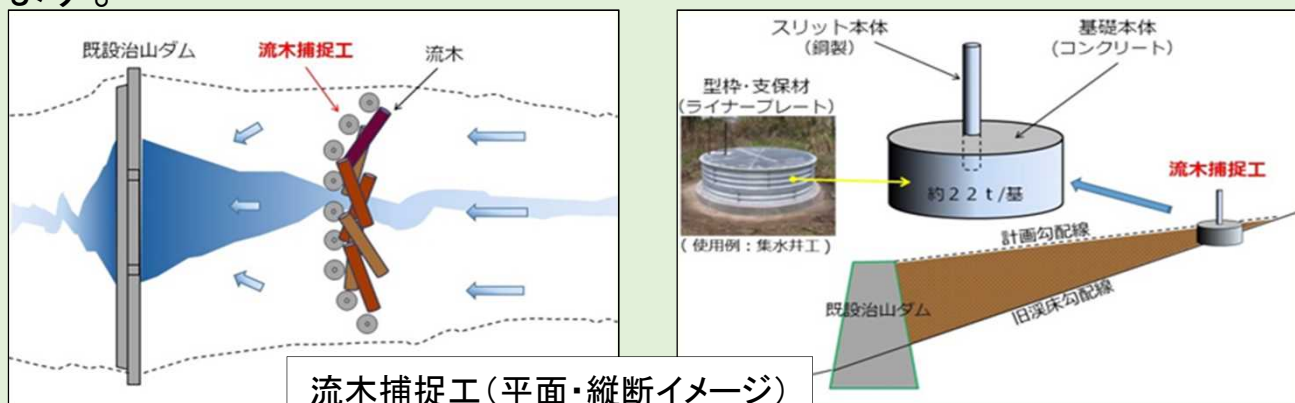
既設治山ダムを活用した流木捕捉工の開発

1. ねらい

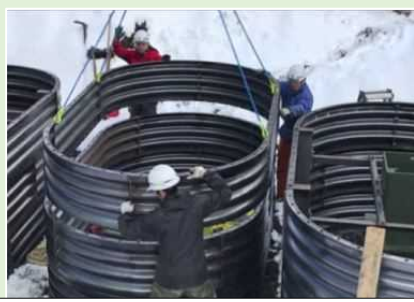
平成29年九州北部豪雨による甚大な流木災害等の発生を受けて、より効率的に流木対策を進めるため、流木捕捉式治山ダムの新設に加えて、局管内の既設治山ダム(約1万基)を有効活用する新工法「流木捕捉工(仮称)」の開発を進めています。

2. 概要

流木を直接捕捉するスリット本体(鋼製)1本と独立した基礎本体(コンクリート)を組み合わせた「流木捕捉工」は、既設治山ダムの上流側へ複数基を横一列に設置します。施工方法は、土砂掘削を行い、縦穴を掘る際に用いる支保材(ライナープレート)を残存型枠として設置して、その中にコンクリートを打ち込み、スリット本体を据え付けて完成となります。



流木捕捉工(平面・縦断イメージ)



残存型枠(ライナープレート)の設置



設置後6ヶ月経過



従来型の流木捕捉式治山ダム

3. 成果

試験的な取り組み段階ですが、同等規模の従来型流木捕捉式治山ダムの新設に比べて設置費が安価(概ね-25%)で施工も容易であり、より多くの場所で流木対策が実施可能となります。また、危険な河川内での作業時間を短縮(概ね-75%)することが可能であり、作業者の安全対策上も有効と考えます。今後、モニタリングを継続的に実施して更なる技術の向上に努めて参ります。

4. 問い合わせ先

治山課 電話026-236-2640